



○鳥獣捕獲の担い手確保・育成のため、セミナーを開催しました！

愛知県では野生鳥獣による農業被害が深刻化していることを受け、その捕獲の担い手となる狩猟者の確保・育成を行っています。

(1) 愛知県わな捕獲技術向上セミナー

狩猟者の「わな猟の狩猟免許を取ったけど、どうしたらいいかわからない！！」、「狩猟をやってみたけど、全然捕まらない！！」といった悩みに応えるため、2021年10月2日に豊田市内でわな捕獲の技術向上をテーマとしたセミナーを開催しました。

16名の方に参加いただき、狩猟免許の活用方法を始め、イノシシの生態やわな捕獲の極意などの講義を始め、箱わなの給餌方法の見学や、くくりわなの架設体験などの実習を実施しました。

(2) 愛知県狩猟普及セミナー

「狩猟免許をとったらどんなことができるの??」、そんな疑問に応えるため、2021年10月31日に豊田市内でベテランハンターを講師に招き、セミナーを開催しました。

狩猟免許の活用事例として、県職員による「狩猟免許制度」を始め、ベテランハンターによる「有害鳥獣捕獲」、「狩猟」、「ジビエ利用」の3つのテーマの講演等を実施しました。参加者からは「初心者とベテランハンターとの狩猟に対するギャップに驚いた。」、「狩猟の実情を詳しく学ぶことができた。」などの感想が寄せられ、狩猟などに対する理解を深めていただきました。



セミナーの様子

左：愛知県わな捕獲技術向上セミナー(2021/9/18)、右：愛知県狩猟普及セミナー(2021/10/31)





○豚熱経口ワクチン回収調査について ～幾多の困難を乗り越えて～

2021年6月から7月にかけて、前期2回目に散布した経口ワクチンの回収調査を実施しました。
昨年度までは散布業者に委託していたのですが、国の補助金の予算縮小により、今年度は野生イノシシ対策室職員自ら回収することに！しかし、前期2回目の散布地点数は1,020地点（散布数20,400個）…職員のみで全部を回収することは難しいので、抽出して調査実施です！

よし頑張るぞ！と意気込んだものの散布地点は主に山林の中。慣れない土地での狭い道の運転に、脱輪・パンク・バンパー損傷と4件のトラブルが発生。

苦勞しながらも何とか全地点の約28%に当たる289地点（県関係施設回収分含む）を回収しました。

幾多の困難を乗り越えて回収した経口ワクチンの、気になるイノシシの摂取率はというと・・・

11%！！

これだけ散布してもイノシシが食べるのは1割程度。

イノシシ生息域の移り変わりやタヌキなどの小動物が先に食べてしまうことなどから、なかなか摂取率が上がらないのが課題です。今回の回収結果を踏まえ、散布方法の改良や現地でのイノシシの痕跡等から散布地点の見直しを行い、後期の散布に生かしています。

何はともあれ負傷者が出ることなく無事に回収を終えられて一安心。も束の間。次は後期散布の回収が待っています。

皆さんも現場活動ではくれぐれも注意しましょうね！



左：散布地点に向かう山道
右：野生イノシシ対策室の職員による回収調査



回収した経口ワクチンの外包
赤丸印：イノシシ摂取9個、青星印：小動物摂取1個



愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726



○マスコットキャラクター「いのべえ」の活用について

野生イノシシ対策室のマスコットキャラクター「いのべえ」のイラストを使用したい場合は、野生イノシシ対策室の Web サイト（以下 URL）に掲載されているイラスト使用届出書により、野生イノシシ対策室へ届け出てください！

URL:<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-shinko/inobee-no-heya.html>



鳥獣トピックス 愛知県の野生鳥獣による農作物被害の状況(2020 年度)

(1) 被害状況について

2020 年度の被害状況をまとめました。調査に当たり、各市町村には多大なるご協力を賜りましたこと、感謝申し上げます。

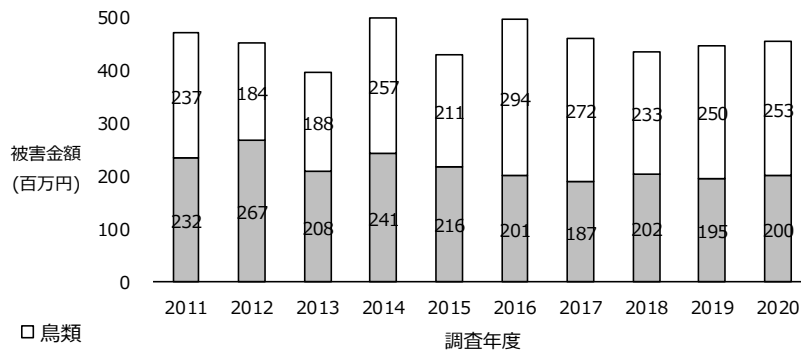
指標	単位	調査結果	前年比(%)
被害面積	ヘクタール	544	94
被害量	トン	2,512	104
被害金額	億円	4.54	102



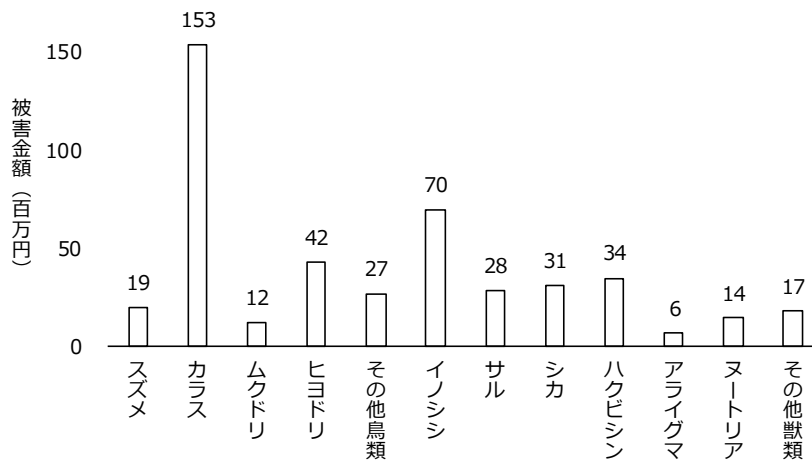
愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726



いのべえ



愛知県の野生鳥獣による農作物被害金額の推移(単位：百万円)



鳥獣種別の農作物被害金額 (2020年度、単位：百万円)

被害状況は、おおむね 2019 年度と同程度でした。2011 年度以降、被害金額は4億5千万円前後で推移しています。2016 年度以降、鳥による被害金額が獣を上回っており、都道府県別でも常に上位にあります(2019 年度は全国第2位)。

鳥獣種別では、カラスによる被害金額が最大でした。獣類に限定すれば、イノシシが最大でした。ヒヨドリ、ハクビシンの被害金額が相対的に大きく、園芸作物の生産が盛んであるためだと考えられます。

(2) 被害状況調査の課題について

集落代表者に被害割合の回答を求める方法(兵庫県立大学)による三重県での調査の結果、農林水産省の被害状況調査の約 30 倍に及ぶ被害金額が算出されたと報告されています(山端直人ら、集落アンケートを用いた鳥獣被害金額算出方法の検討、農村計画学会誌 36 巻、2017)。この報告では、従来の被害状況調査の問題点として零細な営農での被害情報が収集し切れていないことが指摘されています。

愛知県でも同様の事態は十分に考えられ、調査の精度向上が重要な課題です。調査に費やすリソースが限られる中、農業者に極力負担をかけずに情報収集する手法を考案、実証する必要があります。



愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726